

## 6年「命 生きること」

	書名	著者名	出版社	内容
1	いのちのおはなし	日野原重明 文 村上康成 絵	講談社	命って何だろう？命はどこにあるのだろうか？日野原先生は、「命は君達が持っている時間です。これから先、生きて行く時間、君達が使える時間。これが命です。」と、説いている。
2	種まく子供たち	佐藤律子 編	ポプラ社	小児がんにかかった7人とその家族の手記。難病と向き合って日々を精一杯生きる姿は、生きること、死ぬこと、人の尊厳、家族や人々の絆、多くの大切なことを教えてくれる。
3	おれんち、動物病院	山口理 作 岡本順 絵	文研出版	おれんちが動物病院になるだって？冗談じゃない！動物嫌いの勇希。そして、獣医の父。動物病院にやってくる動物達と触れ合い、父の仕事ぶりを見、勇希の心はだんだん変わっていく。
4	花よりも小さく	星野富弘	偕成社	クラブ活動の指導中の事故で、手足の自由を失った星野さんは、口に筆をくわえて、文や絵を描き始めた。「描いた花はみんな好きになってしまう。」と星野さん。星野さんの人生観が伝わってくる。
5	あみちゃんの魔法のことば	ふじもとみさと 文	文研出版	手足がほとんど無い障がいをかかえて生まれてきたあみちゃん。子どもの頃から努力を続け、懸命に生きるあみちゃんだからこそ、伝えられる、元気になる言葉と心あたたまる15の物語。
6	約束	村山由佳 著 はまのゆか 画	集英社	僕らは祈った。4人の輝くような時間を取り戻したくて。僕らが、まだ10歳だった頃、原因不明の病気になったヤンチャを助けようと、タイムマシン作りに情熱全てを傾けるが・・・、ヤンチャは・・・。
7	星空のシロ	井上夕香 文 葉祥明 絵	国土社	動物実験の手術で弱っていた犬のシロは、心優しいさやかさんと出会い、少しずつ元気になっていった。しかし、翌年のクリスマス、シロは交通事故にあい、命を終えた。生命の大切さを詩情豊かに描いた絵本。